

情報は1冊のノートにまとめなさい 100円で作る万能「情報整理ノート」

奥野宣之／著

ナナ・コーポレート・コミュニケーション 2008年3月発行

2階一般開架図書 (請求記号:002.7)

今の世の中いたるところ情報だらけの世の中である。右を見ても、左を見ても情報と名のつくものが売れている。要はそうした情報を自分に役立つものとするのが大事である。そこでこの一冊、あなただけのオリジナル手帳の作成法を紹介する。

まずは100円ショップでA6ノートを1冊準備、後は、思ったことや役立つ情報、旅の記録でもいいし、本の感想でもいい、感じたままにランダムに記入してみよう。形にとらわれず、思いつくままに時系列に記入することが、継続するためのポイントだ。

さらに索引をパソコンで入力することで記入された膨大な情報を一発でノートのどこにあるか検索できるので、いざ必要な時、重宝する。その他新聞記事の切り抜きやハガキ、スケジュール表まで貼る万能ノートの情報管理術など驚くような工夫が満載。

一度試してみませんか？

「運命の騎士」

ローズマリ・サトクリフ／作 猪熊 葉子／訳

岩波書店 1970年12月発行

1階子ども読書室開架図書(請求記号:93/サト)

イギリス人が自分たちを“イギリス人”と意識し始めたのはいつのころからなのでしょう？実は11世紀のころといわれています。世界の歴史から見ると意外に日が浅いのです。イギリスの子どもたちは、1066年のノルマン人ウィリアム征服王のイギリス征服以降、ようやく自国の歴史学習に本腰を入れるといいます。それまで、大ブリテン島にはローマ帝国、アングロ・サクソン、ブリタニー、ノルマン・・・まるで岸边に打ち寄せる波のようにいくつもの民族が侵攻し、血の混合が進められてきました。

さて、本書は、征服王の孫の代の王位継承問題に端を発した戦乱の時代、ブリタニー人の父とサクソン人の母の間に生まれた孤児ランダルが数奇な運命に翻弄されながらも、騎士エベラードの従者となり、騎士の孫ベービスとの友情を育みます。キリスト教が浸透するようになって人々の心の根底に流れ、事あるたびに現れる古い土着の信仰や封建領主と領民の関わりといった当時の社会背景も興味深く思われます。イギリス児童文学においてもっとも尊敬される作家のひとりであるサトクリフが、ランダルの成長物語を軸に、多民族モザイク国家が“イギリス人”としての統一意識を形成するこの時代を力強く描いています。